

大妻力を活かした食育ネットワークの構築

-生きる力を育むための新規媒体の開発と応用-

Shokuiku networking utilizing Otsuma's strength

-development and application of the new media in order to living power-

堀口 美恵子¹, 彦坂 令子², 瀬戸口 清文³, 横内 星美⁴, 本間 めぐみ², 上野 明日香², 加藤 涼子⁵,
玉田 みゆき⁶, 長谷川 みえ⁷, 山下 智子⁷, 高田 恵子⁸, 山田 純子⁹

¹短期大学部家政科, ²家政学部食物学科, ³家政学部児童学科, ⁴大妻中学高等学校, ⁵大妻中野中学高等学校,
⁶北区健康増進センター, ⁷家政学部児童学科卒業生, ⁸短期大学部英文科卒業生, ⁹大妻高等学校卒業生

キーワード：大妻力，食教育，食育媒体，地域貢献，ネットワーク

1. 研究の目的

近年，我が国では食の大切さを伝える必要性が高まっており，様々な人材による各ライフステージへの食育の在り方が模索されている．多様な学部学科を有する本学では，様々な専門分野へ多くの学生を輩出しているが，在學生と卒業生との連携においては，研究室単位，又は学科単位で行われることが多く，大学全体として人的資源を有効に繋げるネットワークが存在していない．

そこで本研究では，歴史ある大妻学院における卒業生の先輩力，教員の専門力，及び在學生のパワーを結集した力を「大妻力」として捉え，まず，代表者の専門領域である食・健康の分野において，学部学科，年代の枠を超えた食育ボランティアを行うためのネットワークを構築し，人材の専門性を活かした社会貢献活動に繋げることを目的とした．なお，活動のツールとしては，新しい学習指導要領で重視されている「生きる力を育む」ことに着目した新規な媒体を「大妻力」によって開発し，様々な場面で活用しながら，その教育効果について検討を行った．

2. 活動実施報告

1) 食育ネットワークの構築について

代表者が大妻学院に36年間所属（中高生徒・大学生・助手・非常勤講師・専任教員）した間の交流を活かし，年代，学部学科の枠を超えた食育ネットワークの構築を目指した．中高大の各クラス会や文化祭等での呼びかけを行い，昭和47年度から平成22年度卒に亘る幅広い卒業生の賛同を得ることができた．また，卒業生の所属は本学の食物，児童，英文，国文の他，大妻高校卒業後の他大経済学部や文学部と多岐に亘る．このように

様々な人材の専門性を大妻力として結集させ，在學生と共に地域に根ざした食育ボランティア活動を行うことができた．また，これらの活動を行うにあたり，教諭，管理栄養士，栄養士，アーティスト等として活躍している卒業生を本学に招いて在學生との懇話会を実施し，各々のキャリアアップに繋がる有意義な情報交換を行うことができた．

2) 食育媒体の開発について

学習指導要領の理念である「生きる力を育む」ことをキーワードとして，五感の育成に着目した媒体を作成した．例えば，撮影した食品の拡大写真から元の食品を当てる，ブラックボックスに入れた食品を触って当てる，調理音から調理操作を当てる，容器に入れた食品の香りから元の食品を当てる等のクイズを通し，各食品に関連した知識（食品の分類・栄養素・加工，植物や魚類の特性，地域の気候風土に結びついた食糧生産，食文化に関わる歴史，食にまつわる漢字の成り立ち等）を，家庭科，保健，理科，生活，社会，国語の学習と連動させてパネルシアターやカード，手工芸品を用いた体験学習ができる工夫を行った．なお，これらの媒体作成にあたっては，小学生と大学生を対象に食に関するオノマトペについてアンケート調査を行い，食品のテクスチャーや触感に関わる表現の多様性を確認して媒体開発に活用した．

なお，③では社会情報学部の生田教授より，「サウンドリーダー」という，紙に音声を録音する技術の提供を頂き，新規な調理音声カードを作成することができた．また，障害児基礎教育研究会主催第18回教材展（H23年8月21日：国立青少年オリンピックセンター）に参加する機会を頂き，

特別支援が必要な児童に対する教材の創作についても見聞を広め、食育媒体作成に関する多くのヒントを得ることができた。

3) 食育活動による社会貢献について

①「日独交流 150 周年記念・お茶料理研究会第 20 回シンポジウム」の関連行事において、食育体験コーナーの設置、活動報告のポスター展示、卒業生との連携による OG 作品展（食を題材とした刺繍・つまみ絵・絵画等）を行い、地域の方々、卒業生、在学生に対して、広く本プロジェクトに関する広報活動ができた（H23 年 7 月 9 日：本学アトリウム）。

②健康増進センターに勤務する卒業生と共に、高齢者への食育活動の一環として健康教室での食育活動を行った（H23 年 9 月 7 日：北区健康増進センター）。

③本学文化祭においては、作成した媒体を用いた食育体験ブースの設置と共に、羊毛スイーツ作家として活躍している国文卒業生による作品展示と講習会も行い、オープンキャンパスに参加した高校生や在学生に対して本プロジェクトの取り組みを紹介することができた（H23 年 10 月 22 日：本学アトリウム）。

④食物学科卒業生が経営する「親子で創る遊びと学びの空間 レオぼっくる」が主催したバザーの会場において、地域の小学生に対する食育活動を行った（H23 年 11 月 3 日：千葉県検見川市）。

⑤食物学科卒業生がボランティア活動を行っている小学校寺子屋事業での料理教室において、調理体験と連動させた食育媒体を用いた食育活動を行った（H24 年 2 月 11 日：北区浮間小学校）。

⑥千代田区児童館において、短大家政科富永准教授と共に「食べ物博士になろう」という 2 回シリーズの食育活動を行った（H24 年 2 月 27 日・3 月 14 日：四番町児童館）。

⑦千代田区主催の食育フェスティバルにおいて、「さわって、かいで、きいてみよう」というテーマで食育活動を行った。この際の媒体として、千代田キャンパス周辺の老舗店にご提供頂いた商品の拡大写真や香りも用いたことから、様々な年代の市民の方々に、五感を刺激する媒体に大変興味をもって参加して頂くことができた（H24 年 2 月 18 日：千代田区役所）。主な活動は上記の 7 件であるが、このうち①、③、⑥、⑦の活動は本学 HP

に掲載された。また、⑦については地元ケーブル TV「TCN」の生活情報番組の取材を受け、千代田区イベントのニュースとして本学のボランティア活動が報道され、本プロジェクトによる社会貢献活動を広くアピールすることができた。

なお震災後、減災ボランティアとして幼稚園等での活動を行っているコタカ記念会宮城支部の方へは、希望をもって頂けるよう「桜と子ども」を描いた絵葉書（研究協力者：山田純子作）を数百枚送付し、活用して頂くことができた。

3. 研究目標の達成状況

初年度は、大妻力を活かした食育ネットワークの構築に向けた具体的な取り組み（食育媒体の開発、及び作成した媒体を用いた食育活動）により、様々な社会貢献活動に繋げることができたことから、研究目標は達成されたものと思われる。

4. まとめと今後の課題

平成 23 年度に構築した食育ネットワークにより様々な媒体を作成し、子どもから高齢者に対する社会貢献活動を行うことができた。今後は本ネットワークによる活動をさらに系統的に発展させ、新規媒体による食教育への効果、及び社会貢献による地域への効果を統計的に検証する。

5. 研究成果

1) 学術雑誌

[1] 堀口美恵子. 男女共同参画社会の実現に向けた APEC Women Leaders Network による取り組み. 大妻女子大学家政学系紀要. 2012. 48. p.95-102.

2) 学会発表

[1] 堀口美恵子, 玉田みゆき, 生田茂. サウンドリーダーを活用した食教育媒体の開発-子ども料理教室における食育活動の取り組み-. 第 65 回日本栄養・食糧学会大会. お茶の水女子大学. 2011. p.235.

[2] 堀口美恵子, 玉田みゆき. 和食材に着目した食育媒体の開発とその利用効果の検討. 第 5 回日本食育学会. 神奈川県立保健福祉大学. 2011. p.88

[3] 玉田みゆき, 堀口美恵子. 食育の媒体として絵本の活用「絵本の中にはおいしく楽しいことがいっぱい」. 第 5 回日本食育学会. 神奈川県立保健福祉大学. 2011. p.99.